

10 海岸の植物

海岸の植物ってすごい！

■砂浜の植物の特徴

海岸に生育する植物は、砂の移動、塩分を含んだ潮風、強い風など、厳しい環境の中で生きています。植物は、台風や高潮で潮水に長時間浸ったり、強い風に長時間さらされた場合には、葉が枯れたり、地下の根や茎が切れたりなどして枯れてしまうことがあります。そのため、生育できる種類は限られます。海岸の植物は、再生力が強く、次に示すような棲み分けをしています。

◆水際からの距離により棲み分けをする植物

同じ砂浜でも水際からの距離によって環境が大きく異なります。環境の違いは、風の強さ、海水の影響、砂の移動などの影響の度合いによるものです。わずかな距離の違いでも、そこに、それぞれの環境に適応した植物の棲み分けを観察することができます。

■海側から順に、次の4つの環境に区分できます（参照：裏面「■海の豆知識－浜辺の環境区分」）

- ①満潮時や海風が強いときは波をかぶり、少し掘ると海水が出てくるところ：ハマニンニクなど
- ②風のために砂の移動が激しく、水はけが良いために、砂のかなり深いところまで乾きやすいところ：コウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマニガナなど
- ③風の影響が比較的小さく、砂の移動も少ないところ：ハマエンドウ、ハマボウフウなど
- ④砂から普通の土に変わっていくところ：クロマツなど

◆増え方の違い

- 地下の茎を広げて増える種類（砂の移動が激しい砂浜）：コウボウムギ、コウボウシバ、ハマニンニク、ハマニガナ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ウンラン
- 地上を這って広がる種類（砂の移動が少ない砂浜）：ハイネズ、グンバイヒルガオ、テリハノイバラ

■標本作り作業の解説

●標本作りの目的

屋外ではなかなかつかめない植物の特徴をじっくり観察し、その植物の名前や生態について知ることが目的です。

●必要な道具

採集時のビニール袋、新聞紙（たくさん）、台紙（ケント紙）、のり

●作業の手順

◆植物標本の採集

できるだけ花や実がついているものを選び、根まで掘り探るようにします。採集した植物はそれぞれビニール袋に入れます。

◆標本を乾かす

形を整えて新聞紙にはさみます。すいとり紙（新聞紙）を重ね、板をしいて重しをのせます。すいとり紙は毎日取り替えます。最初の3日間は、1日に2回取り替えるとよいです。早いもので7日間、通常10日間ぐらいで乾きます。

◆台紙に貼り付ける

台紙に乾いた標本を形良く置いて、テープで貼り付けます。テープは切った紙にのりをつけたものを使います。

◆データ作り

最後に台紙に採集場所、採集日時、採集した人の名前、植物の名前を書いたラベルを貼ります。

◆保管

ナイロン袋の中に標本とナフタリンなどの防虫剤を入れ、適当な大きさの箱に入れて保管します。産地別、種類別など都合のよい方法で整理するとよいでしょう。

10 海岸の植物

■砂浜植物のデータ

◆地域の砂浜に生育する主な植物（番号は波打ち際から内陸に向かって主に生育している順番です）

1. ハマニンニク



2. コウボウムギ



3. ハマヒルガオ



4. ハマニガナ



5. ハマエンドウ



6. クロマツ



◆少なくなっている植物（宮城県レッドデータ掲載種）

●ハマボウフウ（絶滅危惧Ⅱ類）



●テリハノイバラ（要注目種）



■海の豆知識－浜辺の環境区分

●海側から内陸側へ――

- ①：満潮時や海風が強い時などは波をかぶり、少し掘ると海水が出てくるところ
- ②：風のために砂の移動が激しく、水はけが良いためにかなり深いところまで乾きやすいところ
- ③：風の影響が比較的小さく、砂の移動も少ないところ
- ④：砂から普通の土に変わっていくところ

